

---

---

# 2024年度 岐阜協立大学 学内ゼミナール大会 参加論文

---

---

ゼミ名 佐々木Ⅱゼミ

テーマ 仙台と山形における持続可能な観光経営モデルと観光デジタルツールの実践例

代表者 西川正真

参加者 西川 正真 南 柚生 福田 翔 出口 大記  
小川 凌我 岩田 知也 南里 優介  
ボバディジャ・ヤルレケ・ミゲル・アンヘル

## 目次

1.	はじめに .....	2
2.	仙台・山形の事例 .....	2
3.	大垣市の事例 .....	4
4.	考察 .....	5
5.	今後の展望 .....	5
6.	おわりに .....	6
7.	現地調査場所一覧 .....	6
8.	参考文献 .....	7

## 1. はじめに

仙台と山形は、江戸時代の俳人・松尾芭蕉が『奥の細道』の旅の途上で訪れた重要な地点である。山寺（立石寺）や松島といった観光地は、芭蕉の俳句に詠まれた地として歴史的・文化的価値が高く、国内外の観光客を惹きつけている。山寺は急峻な石段や苔むした寺院群、山頂からの壮大な眺望が訪問者を感動させる。一方、松島は日本三景の一つとして知られ、海上に浮かぶ大小の島々が四季折々の美しさを見せている。また、『奥の細道』の終点として芭蕉が選んだ大垣市も彼の旅路を辿る上で欠かせない地域の一つである。水都としての特徴を持つ大垣には、水門川や大垣城、奥の細道むすびの地記念館などの観光資源が存在し、芭蕉の足跡をたどる旅人に深い感銘を与えている。

これらの地域はそれぞれが持つ観光資源を活用し、多くの観光客を国内外から引き寄せている。しかし、観光資源の利用が進む一方で、地域の文化や自然環境を守りながら経済活動を推進する「持続可能な観光」の実現は、多くの課題を抱えている。たとえば、観光地の過剰利用が地域住民の生活に与える影響や、訪問者数の増加に伴う環境負荷などが挙げられる。また、観光地の魅力を効果的に発信し、地域全体の観光業を活性化させるためには、現代のデジタル技術を活用した革新的な方法論も必要である。本研究では、これらの課題に応えるため、『奥の細道』に関連する観光地として仙台・山形・大垣市を対象に現地調査を実施し、観光資源の活用方法、持続可能な観光経営の実践、そして観光支援におけるデジタル技術の導入について検討を進めた。

本研究の目的は、松尾芭蕉『奥の細道』に関連する観光資源の価値を最大限に引き出し、持続可能な観光経営モデルの構築を目指すことにある。環境保護と地域経済の発展を両立する観光のあり方を探求しながら、観光地におけるデジタル技術の導入が観光客体験や運営効率に与える影響を分析し、その課題を明らかにする。また、地域全体で観光資源の魅力を最大化し、国内外の観光客に訴求する効果的なプロモーション手法を提案することも目的の一つである。

## 2. 仙台・山形の事例

本研究のため、仙台・山形へと現地調査を行った。まず、仙台・山形の主な観光地として山寺や松島、福浦橋などがある。山寺と松島はどちらも芭蕉が『奥の細道』の旅の途上で俳句を読んだ場所であり国内だけではなく海外からも多くの観光客が訪れる。松島にある福浦橋は日本三大三景の一つである松島をより魅力的に見ることができる。更に松島では、ご当地名物「笹かま」の手焼き体験コーナーがあり実際に笹かまを自分で焼いて食べることができる。見て学ぶだけではなく実際に体験して学ぶことができる観光地を仙台は展開している。

食文化として、笹かまを始め牛タンや魚介、山形のだしを使った料理など地元の食材を食文化として活用している。IoT の活用事例として、仙台駅内にある観光案内所ではバスのりば案内がタッチパネルディスプレイで設置されていた。行き先の停留所について乗車する場所または目的の施設の名前から検索することができるようになっていた。このシステムによってバスでの移動が簡単かつ便利になっている。

山形の山寺では音声コードアプリ『Uni-Voice』が用いられており、QR コードをアプリ

で読み取ることによって歴史的建造物に関する説明が英語や中国語、韓国語といった多言語に対応し国内だけではなく海外からの観光客に対する環境が整えられている。また、NFC 機能を活用しスマートフォンをかざすことで建造物に関するホームページへとアクセスすることもできる。松島でも同様のシステムが用いられており、観光地の情報を容易に得ることが可能となっていた。これらの観光地を回る際「仙台まるごとパス」を利用することができ、これは JR・地下鉄・バス・仙台空港鉄道が 2 日間乗り放題となっている。また、パンフレットには各観光地の名物を扱った店舗に関する情報も記載されており各店舗のホームページの QR コードも記載されており店舗の詳細を見ることもできるようになっている。



図.1 笹かま体験

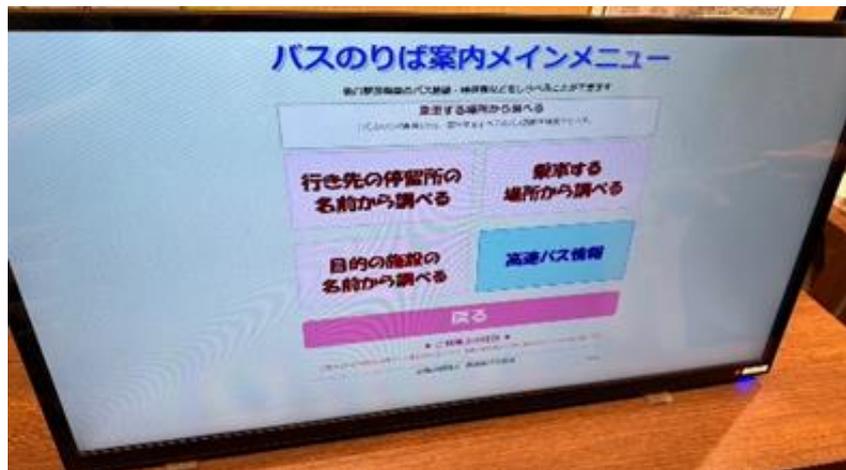


図 2. バスのりば案内（仙台駅構内）



図 3. 『Uni-Voice』の活用事例



図 4. 仙台丸ごとパス

### 3. 大垣市の事例

大垣の主な観光地として水門川や住吉燈台、大垣城、そして『奥の細道』の終点地として奥の細道むすびの地記念館などがある。住吉燈台は水門川の辺にあり芭蕉が句を読んだ場所である。大垣城は天下分け目の大決戦であった関ヶ原の戦いで西軍の本拠地となったことで有名である。奥の細道むすびの地記念館は大垣が『奥の細道』の終点地であるためむすびの地として記念館が建てられ観光地となっている。食文化として、水都大垣の名物水まんじゅうや川魚、大垣ラムネがあり、升の生産が全国で1番であるため升を活用した升スイーツが有名である。大垣も仙台・山形同様に地元の食材を食文化として活用している。IoTの活用事例として、大垣市が力をいれている3DVR映像がある。奥の細道むすびの地記念館を始め大垣城や墨俣一夜城、黄金の茶室などWebで閲覧することが可能となっている。



図 5. 3DVR映像の事例（大垣）

#### 4. 考察

仙台・山形と大垣を比べ言えることは観光資源や食文化などはそれぞれの地域の特色を活かしていることがわかった。しかし、観光客の推移としては仙台・山形の方が圧倒的に多いことがわかる。要因の一つとして知名度がある。2011年に発生した東日本大震災によって仙台の知名度は世界中に知れ渡った。観光が解禁された年は震災復興を支援したいと考える人々や、被災地の現状を直接見たいと考える観光客が増加し、特に復興が進み観光地としての安全性が広く認知されたことで観光需要が回復・増加したといえる。また、仙台は年々増えている東北地方を訪れる外国人観光客の玄関口的な存在でありガイドブックやツアーでも頻繁に紹介される。その上、成田空港や羽田空港から新幹線で簡単に行けるためアクセスの良さもある。一方の大垣は、ローカルで独特な魅力があり水都としての風情ある町並みや豊かな自然を好む観光客が一定数いる。また、大垣城や水門川は日本の伝統的な町の雰囲気を感じられるスポットであり歴史好きな外国人には評価されていることが実態となっている。すなわち、仙台・山形と大垣では似たような都市でも知名度やアクセスの良さなどの違いがある。

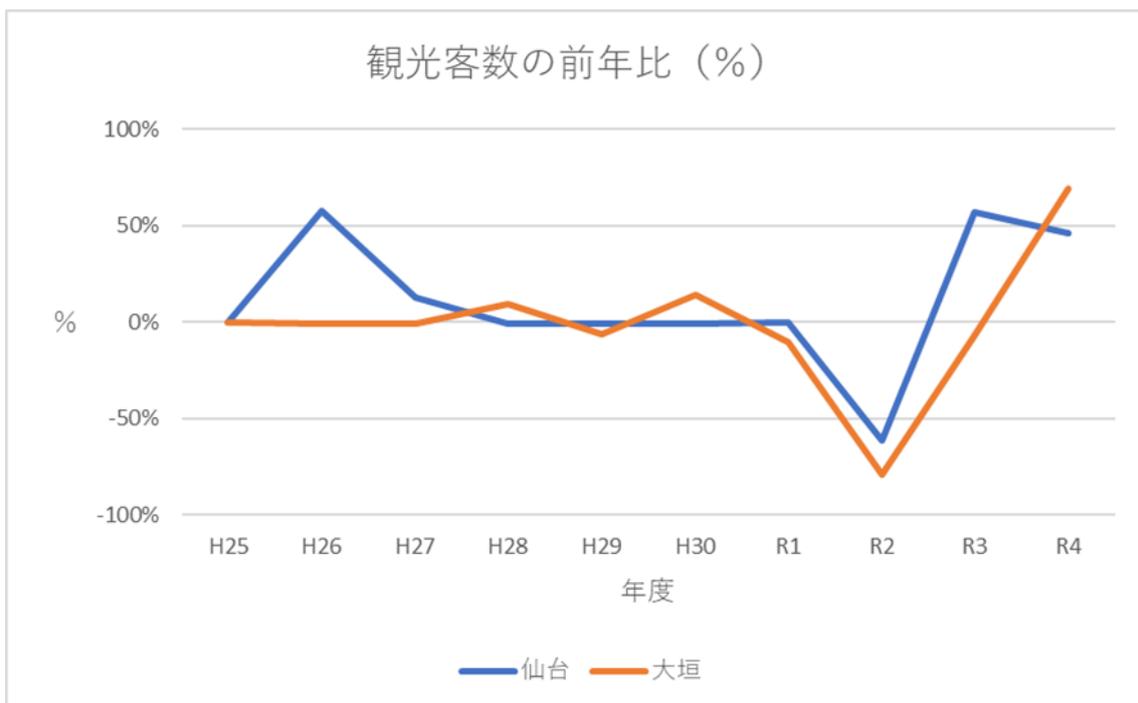


図 6. 観光客数の前年比グラフ

#### 5. 今後の展望

仙台・山形とではアクセスの良さでは解決策はないが知名度ではまだまだ対策することができる。大垣の課題はプロモーションが足りていないといえる。仙台と大垣の公式チャンネルの再生回数を比較するとその差は歴然である。仙台の方は主に観光動画を多くアップロードしているおり観光に関する情報を多く発信している。しかし、大垣の方は市民向

けの動画が多く観光に関する動画は僅かしかない。また、IoT の活用に関しても仙台・山形とは大きくことなる。仙台・山形は外国人観光客に対応するため IoT 技術を活用し環境を整えている。しかし、大垣は Web で楽しめるだけである。QR コードも記念館や博物館にはあるが仙台・山形のように街にありふれているわけではない。すなわち、大垣には IoT 技術の活用のベクトルを変えることが必要であることと今一番解決すべき課題は仙台・山形に匹敵する観光資源が多くあるためそれを活用するべく観光プロモーションをする必要がある。観光プロモーションを世界中にアピールする必要がある。

仙台・山形は東日本大震災後の観光解禁で一時期多くの観光客が訪れたが年々低下していった。そして、コロナ禍になり仙台・山形だけではなく大垣を含む世界中の観光客が低下した。コロナ禍が明け観光も解禁されたが観光客の前年比を見るとなんと仙台・山形より大垣の方が伸びていることがわかる。仙台・山形はコロナ禍前にできることをやっていたためこれ以上伸ばすことは難しいが大垣はまだこれから成長段階であるため今後の成長が望める。アクセス面も仙台ほど良くはないが、岐阜には高山があるため高山の帰りにそのまま帰るのではなくふらっと大垣に寄ってもらえるようなプロモーションをしていけばいずれは仙台・山形のように大垣を目的地として海外からの観光客が訪れる日も来るかもしれない。

## 6. おわりに

松尾芭蕉の『奥の細道』に関連する観光資源から仙台・山形に現地調査を行い大垣と比較をした結果、どちらも魅力的な観光資源があり地元の食材を活用した食文化を形成することで環境保護と経済活動のバランスが取れていることがわかった。IoT 技術を活用することで日本人だけではなく海外からの観光客に対しても対応することが可能であることがわかった。大垣の課題として、まず歴史的・文化的資源を活用するためのプロモーションが必要でこれを実行することで今後さらなる成長を望むことができる。

## 7. 現地調査場所一覧

- ・ 仙台駅観光情報センター  
宮城県仙台市青葉区中央 1 丁目 1-1 JR 仙台駅 2 階  
<https://www.sentia-sendai.jp/guide/>
- ・ 山寺  
山形県山形市山寺 4456-1  
<https://www.yamaderakankou.com>
- ・ 鹽竈神社  
宮城県塩竈市一森山 1-1  
<http://www.shiogamajinja.jp>
- ・ 松島  
<https://www.matsushima-kanko.com>
- ・ 松島蒲鉾本舗 総本店  
宮城県宮城郡松島町松島町内 120

<https://www.matsukama.jp/>

## 8. 参考文献

- 大垣市ホームページ  
<https://www.city.ogaki.lg.jp/0000031404.html>
- 仙台市ホームページ  
<https://www.city.sendai.jp/kankokikaku/toukei/toukei.html>
- 大垣市観光協会 公式オンラインショップ  
<https://ogakikanko.official.ec/>
- 旅時間 大垣市  
<https://tabijikan.jp/ogaki-city-specialty-foods-61560/>
- Masu cafe  
<https://masucafe-ohashiryoki.jimdofree.com>
- 大垣市旅行組合  
<https://ogaki-ryokan.com/bloglist/post-465/>
- 東海カメラマップ  
<https://tokai-camera.com/>
- 奥の細道むすびの地記念館  
<http://www.basho-ogaki.jp/index.html>
- 住吉燈台  
[https://ja.wikipedia.org/wiki/住吉燈台\\_\(岐阜県\)](https://ja.wikipedia.org/wiki/住吉燈台_(岐阜県))
- 大垣城  
<https://ja.wikipedia.org/wiki/大垣城>
- 芭蕉翁顕彰会  
[https://www.basho-bp.jp/?page\\_id=28](https://www.basho-bp.jp/?page_id=28)